

## 「進路を考える会」議事録／⑥美術系

### 社会科学学習室

Aさん：武蔵野美術大学 造形学部 デザイン情報学科

Bさん：多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科

### 1. 進路を決定した時期と、その大学を選んだ理由

Aさん：1年次の後期に学園祭に行き、校風が自分に合っていると感じた（神奈総に似ていた）。

1年の冬季講習から画塾（横浜美術学院）に通い始めた。

Bさん：1年次の春休みから2年次へ上がる間。春休み中に春季講習予備校（美術系）へ行き、進路を決定。高校入学前は考えていなかったが、神奈総に入って、周りの友達から刺激、影響を受けて考えるようになった。

### 2. 入試方式

Aさん：センターと個別試験（英、国、現代社会）

武蔵美の視覚伝達デザイン学科は手のデッサンや色彩構成などの実技テストで、映像学科はデッサンと造形表現（紙粘土とヘラで感情表現を表す）など。

武蔵野と多摩は受験日が重なることもあるので注意が必要、学科試験の傾向も違う。英語は学科によってリスニングが必要、小論文や数学を選べる学科もあった。

Bさん：センターと個別試験の両方を受験。絵に自信があれば、個別試験、学科に自信があればセンターがおすすめ。推薦入試は決まってからサボるとか学力が落ちることもあるのでおすすめはあまりしない。

### 3. 本格的に受験勉強を始めた時期

Aさん：1年次後期の冬期から画塾に通い始めた。

Bさん：クラブ活動を1年で辞めて、アトリエという美大の予備校へ春期講習から通い始めた。

### 4. 勉強方法

Aさん：絵は画塾に通って技術を磨いた。1年次の後期は週2回3時間、2年次は芸大なら週4回3時間、私大なら週3回で3時間、3年次では週5回で3時間と英語1時間と国語を始めた。英語や国語の学科も得意でなければ早い内に始めた方がよい。実技はもちろん、学科の方も力を入れ

て取り組んだ。英語は電車の中で単語を覚えたりした。国語は得意だったので、苦労しなかった。画塾でも学科は教えてもらえた。画塾では絵だけ、他の時間は学科の勉強に充てていた。絵は先輩の作品を参考にして画塾を最大限活用した。

Bさん：アトリエで1, 2年次に週2回と日曜日、3年次は毎日3時間。月に1, 2回模試を受けた。

## 5. おすすめの参考書

Aさん：画力を養うために画塾を有効活用した。先輩の作品をたくさん見て（デッサンや色彩構成など）盗めそうなところは参考にした（良いと思った作品はどこがどう良いかなど）。英語や国語などの学科、特に英語は重要。画塾でもらうテキストや神奈総で使う英単語などの教材は役に立つので活用した方がよい。

Bさん：学科は神奈総とアトリエで配られる参考書やテキストを活用し、画力はアトリエの作品集、雑誌や先輩の作品を参考にして、自分のアイデアや考えを入れた。

## 6. 部活、委員会、行事との両立

Aさん：部活はイラスト部でテーマは3DCG。1年次から独学で進めていたので、それほど大変ではなかったが、テーマ発表の時期は忙しく、徹夜したことも。この時期は忙しく大変なので、1, 2年次の時に早めに準備しておいた方がよい。2年次は原稿編集なども担当していたが、両立は負担ではなかった。3年次では画塾の課題が大変になるため3年では活動しなかった。

Bさん：1年次は部活をやっていたが、アトリエに入るときには休部し、3年次でアトリエの課題（100枚デッサン）とテーマ研究が重なって大変だったので、テーマ研究は2年次に済ませておくようにするとよい。テーマは音楽とアニメを組み合わせたもの。

## 7. 受験の感想

Aさん：絵を描くのは好きだったが、辛い時もあった。他の学科（Fine系も含め）や大学、専門学校も含め沢山見ておけばよかった。早く進路先を絞りこまず、選択を広げ、生の声を聞く、それで本当にやりたいことを見つけていくとよい。12月の受験説明会で予備校の先生の話聞いた方がよい。神奈総在学中は美術ⅠⅡⅢ、絵画、絵画研究などの美術系の授業をいろいろ取っておくとよい。同じ興味や進路を希望する学生が集まっているため励みになった。

Bさん：受験につまづいたり、怒られたりして乗り越えられたからこそ、次に繋がる。受験の準備期間は負けない気持ち、信念をもって挑んだらいいと思う。

## 8. 大学の授業内容、学校生活全般の感想、入学前と印象の違い

Aさん：学校生活は自由気ままで、美術の勉強に打ち込めて、充実している。先輩が多いため、たくさんの情報が聞けて、毎日がとても楽しい。学校生活は様々な活動に積極的に参加していて忙し

い。20時まで学校で課題や自主制作に励んでいる。学校まで遠いため、電車の中の過ごし方も、パソコンで課題をやったり、英単語を覚えたり工夫している。学科の域を越えてやりたいことをやれる。1学年は100名位在籍していて、1年生は忙しく、2年生からは少し楽に。グループワークが多い。

Bさん：HP作成、プログラミングを書いて、絵を描き、動画にするなど個人作業が多く、授業では町中の看板やポスターを見つけ、自分で興味のある言葉を決めて（例えば「神奈総」だったらいろいろな「神奈総」を見つけてきて）、文字の使われ方の違いを知る。人体や広告などの専門以外の幅広い授業が受けられる。オープン学科があり、入学してからも他校を見に行ける。授業は9時から16時まで（4限まで）。5限もある。毎週レポートがあるのでレポートの書き方を高3のうちに学んでおくといよい。通学時間は電車内でレポートを書いたり、勉強したり有効的に使っている。

## 9. 現役生に伝えたいこと

Aさん：英語の勉強をしっかりとしておくこと、大学受験だけでなく、就職してからも必ず必要になってくる。ゲーム業界も世界を視野に入れているので、TOEICなどを受けておくといよい。生涯の友人として、同じ美術系だけでなく、高校時代の人間関係を大切にしておくこと。高校時代（予備校時代）に作成した作品は就活に使えるので捨てないで、綺麗な状態で保管してとっておいてください。神奈総の授業で受けておいた方がよいものは情報デザイン（Adobe系ソフトが使えるようになる）、絵画、美術、絵画研究など。

Bさん：受験は辛いが通過点なので、入学してから何をするのが重要。今はその為に力を貯えているんだと思って頑張ること。朝型に変えて、朝勉強する事がよい。英語もきちんと勉強しておくこと。多摩美は就職指導もシビア。武蔵野と多摩は受験日が重なることもあるので、日程についてはよく調べておくこと。

## 【 質疑応答 】

●（先生から） 受験中に親に求めること、思うことは？

Aさん：受験そのものについてはそっとしておいてほしい。お金のことは問題ないと言われてもらえて感謝している。講評などで厳しいことを言われて落ち込むことも多いので、自分から話したい時だけ聞いてもらいたい。

Bさん：支えてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。

● 画塾に行かなくても実力はつきますか？

通うことで上手い作品を見て刺激がもらえて、同じ道を目指す友人ができる。地方だと夏期講習と冬期講習だけ通うケースもあり、また通っていないなくても入学している学生もいる。

● 画塾に通うペースは？

Aさん：1年次は週2回で1日3時間、2年次は私立希望で週3回で1日3時間、芸大希望で週4回で1日3時間、3年次は週5回で一日3時間、英語と国語を各1時間というスケジュールでした。

Bさん：アトリエで1, 2年次に週2回と日曜日、3年次は毎日3時間です。

● センター試験の受験科目は？

Aさん：英語（英作文と和訳が高配点、リスニング有り、学科によって変わってくる）、国語（現代文）、現代社会で受験。小論文はなし。個別試験は学校によって傾向がちがうので、よく対策しておくこと。

Bさん：小論文と英語（主に単語）。受験日程は実技があるので、併願ある場合は気を付ける。

● 教職員を目指すには？

美大、美術学科で教員に必要な単位を取ること。専攻によって取れる免許の種類が違う。

デザイン系は企業寄り、教職に進む人が少ない。教職についてはデザイン学科は限られている。

● A0, 推薦などで入学する学生はどのような感じですか？

Aさん：入学後共通テストが実施されるが、絵の経験がない人とある人では差があることは確かだが、小論文で入ってきた強みもあると思うので、いろんな人がいて、いろんな入試形態があるのはいいと思う。

Bさん：推薦は入学までのモチベーションを上げたままにできるかが重要。勉強をしなくなるから、推薦はやめた方がいいとアトリエで言われた。